

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所(児童発達支援) きらめき読谷		
○保護者評価実施期間	2025年1月6日		2025年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2025年1月6日		2025年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	主に運動発達に課題のある子どもや重症心身障害および医療的ケアの必要な児童を受け入れる環境が整っている。保育士・児童指導員に加えて看護師・理学療法士が在籍し安心して利用でき就学に向けて身辺自立を目標としたケアが受けられます。	就学までに5領域の観点から生活支援を行っていき、健康観察を基本に安心して利用できるように随時、保護者と体調面で情報共有が可能な体制を整えている。活動に楽しんで参加することで心身の成長に意識した取り組みをしています。	保育所など同年代の子どもと交流する機会をつくりたい。 空間や状況を把握しやすい様に視覚的に分かりやすい掲示物の工夫に取り組みたい。
2	法人内の事業所から言語聴覚士が向出で来ることもあり、口腔機能の評価と摂食訓練や言語・コミュニケーションに関するアドバイスも受けることが出来る。	昼食やおやつなどでしっかり栄養摂取できるように、みんなでテーブルを囲み楽しい雰囲気づくりにて摂食練習につなげている。	保護者を介して医療機関や療育センターとケアの進捗状況の情報交換して、積極的な支援に取り組みたい。 補聴器を使用している児童においては、きこえの支援センターとも連携を図っていきたい。
3	近隣に読谷村社会福祉協議会や村役場が近隣にあり災害時の避難場所などでは連携しやすい。 村営の駐車場があり、広い庭での交流イベントも実施しやすい環境である。	室内外と環境が広がったことで法人内の他事業所とへ声掛けて意識的に交流をするようになった。 子ども同士や職員間交流による情報交換の場にもなっている。	近隣の施設などへのお出かけや広い庭を使った家族および地域移行支援を目的とした交流会を実施したい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	吸引・吸入、経管栄養などの医療的ケアや移動や排泄面での身体介助を要する児童が多く、遠出のお出かけは計画しづらい。 外出支援が庭や近隣散歩になることが多い。	平日午前中や長期休みと土曜・祝日の余暇時間に余裕のある人員配置が出来ない事が課題の要因。	ボランティア団体などの要請により、間接的な業務を手伝ってもらうことも工夫の一つ。
2	医療的ケアや介護度の高低差の違いにより全員一斉に活動プログラムを実施することやが難しく、個別や少人数のグループに分けて実施する事が多い。	特性の多様性で個々の日課が異なることや、多機能型事業所ゆえに午後から児童が増えてくる。下校時間も異なり後半の時間に全員が集合する。	計画的に年間行事に組み込む事で、事前準備により実行可能な内容の活動プログラムを作成する。
3	ハイエースなど大きめの福祉車両を運転できる人材に限られる。	大きめの福祉車両の運転ができる人材の育成が課題。	大きめの車両でも普通免許で運転可能である為、無理のない範囲で徐々に練習して慣れる取り組みをする。中型の福祉車両もある為、乗車することもがチャイルドシートを使用するのかバギーを利用するのか組み合わせを工夫する。